
異世界での体験記、あるいは...？

トーコ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

異世界での体験記、あるいは…？

【Nコード】

N4426E

【作者名】

トーコ

【あらすじ】

異世界へと落ちた主人公と、周りの人々のお話。

1・異世界での体験記、あるいは…？

世の中には、注目される人間とそうでない人間、又はその中間に立つ者で構成されている。

『異世界での体験記、あるいは…？』

例えばそう、我が母国・日本の総理や大臣などは明らかに『注目される側』の人間だ。ひとつひとつの動作が常に話題となり、休まる事をしらない。こうして淡々と自分の意見を述べている私はどちらかと言うと『中間に立つ側』の人間である。まあ、その理由を簡単に説明するなら。

私以外の家族全員が、特に際立つ『注目される側』の人々だからだ。

簡単に皆を紹介すると。一家の大黒柱たる父は、世界的大財閥の社長にして日本では裏で政治を操っているとまで言われている狸。（これは私の主観）

そんな夫を影から支えて いない元ハリウッド大女優の母。

結婚後夫の下で経営学を学んだ彼女はその面白さに目覚め、今では自分で夫とか関係のない会社を興し奮闘中である。大財閥の社長夫人として役目など放置状態だ。ちなみに現在の国籍は日本だが、祖国はフランスである。何でも学生時代にアメリカの映画監督にスカウトされて、渡米したんだとか。父とどういう経緯で出会ったかは興味がないので聞いていない。

次に、私と9歳離れている長男。

職種は父の跡継ぎ、某難関大学を14歳で飛び級して卒業してしまった天才。IQが物凄く高いらしいが…これもまた興味がないので知らない。今はヨーロッパにある企業らを任されており、日々あちこち飛び回っている…らしい。

長男の下は次男。

ハーフだと一見してわかる甘ったるい容姿を持っているこの兄は、日本でトップアイドルとし

て活躍中。最近では母の血を受け継いだのか俳優にまでチャレンジしている。その人気はうなぎのぼりで、何でもコンサートチケットをオークションに出すと元値の十倍以上の値がつくとかつかないとかつかないとか。どこまでが本当か検討もつかないが、取り敢えずファンが多い。

そして最後の家族は、年子の妹。

キラメル色のふわふわとした髪が特徴の都内有名お嬢様高校に通う女子高生である。兄たちと違ってこれといった活動をしていないのだが、何故か崇拜者が多い。私を除く家族全員がこの子を溺愛していて、我が家は妹を中心に廻っているといっても過言ではないだろう。まあ本人は至って呑気者（いや、天然か？）なので、それを悪用して人様をどうこうしようとはしないが。

以上が、我が家に関するインターネットで簡単に調べれば出てくるデータである。

祖父母とは同居していないので、（だって母方は外国在住だし）最近の典型的な核家族である。簡単に言えば6人家族。兄妹が4人もいるなんて、日本の少子化を考えれば多いほうなのかな？まあ、どうでもいいけど。ここまで聞けば、この色んな意味でど派手な家族の長女である私もさぞやすごい人物なんじゃないかと思う人も居たかもしれないけど、ノンノン。

私、おひめ櫻坂 としか透佳は。

19歳、引きこもり。現在、部屋から一步も出ないだけでなく、ろくに家族とも顔を合わせていないのです。……まあ、仕方がないと

言えば仕方がないんだけどね。だってそうでしょ？

- - - - - 一日の大半を、異世界で過ごしているんだから。

+ + + + +

こちらの世界 インフェリアーディナ（発音が難しいので覚えるのに苦労した）に来てしまったのは今から6年前。事故だったのか、それとも自意識過剰で言ってしまうば世界に呼ばれたのか。定かじやないけど、中学校の下校の途中で行き成り目の前が真っ暗闇になったと思えば周りの風景が変わっていた。

みんなは想像できる？

突然自分の置かれていた状況が激変して、尚且つ見たこともない景色が目飛び込んできた時の恐怖を。よく異世界トリップの物語でそんな場面が出てくるけど、所詮は作り話だ。冷静でなんていられる訳がない。月は2つどころか6つもあるし、変なフワフワした物（後でわかった事だったけど精霊だった）があちこちで浮かんているし。

何より！！

目の前に、そりゃあもう今まで見たことがないようなデカイ生き物がどんつと構えてこっちを見てたりすれば。誰だって悲鳴を上げるでしょ！あの時の恐怖は今でも覚えている。ほんとーに、ほんとーに怖かった。

今思い出せば笑い話で済んじゃう話だけど、その時は事情とかも分らなかったし、何より竜っていう存在自体はファンタジー上の空想物だと思ってたから。もう慣れたけどね。

で、その場で気絶してしまった私だけど、目覚めてからは現実を受け入れるしかなくて色々と努力した。ええ、自分でも自画自賛してしまうほど！竜とか精霊みたいな不思議生物（この世界では普通らしいけど）とは精神の中で会話が出来たからいいけど、異世界人相

手にはそれが通用しない。よって、語学を習得することから始まった。

それから、世界の常識、生きていくための防衛術や何やらを必死で勉強して…。

二年くらいたった頃には生きていけるに問題ないまでになったかなあ、ちなみに異世界に飛んで一番初めに会ったのが竜だったって言うのは、別に特別な意味はなかったらしい。彼ら（不思議生物たちね）が言うには、仲間で酒盛りをしている最中に突然私が目の前に現れたんだとか。

簡単に言えば、自分たちはこっちの世界に来た理由なんて何も知らないよ、ってこと。

元の世界に帰れる方法はあっさりと見つかったから、帰ろうと思えば直にでも出来ただけで、現代の生活に疲れを感じていた私はこっちの世界の方が面白いと感じて居座ることにしたわけ。

もちろん、一度帰って家族や周りに疑われないように（だって失踪届けとか出されたら面倒だし）色々と工作したけど。一人で生活が出来ようになるまでの面倒は、竜たちと一緒に酒盛りしていた正体不明のおじさんが見てくれた。

最初は変な趣味とか持つてるんじゃないかって怪しんだけど、特にこれといった変な動作はなかったし、一緒に生活していくうちに根は良い人だって事がわかったから今では義理の親とも言える存在になっている。よく考えれば私ってラッキーだったかもね。下手したら獣とかに襲われて死んでたかもしれないし。最悪の場合餓死してたかな？

………やばい。本当に感謝しなきゃ。ありがとう、おじさん！

完璧に異世界人になれるまで生活した場は深い深い森の中だった。普通の人間が住む場所まではすごくすごく離れていて、何でも落下しなければいけないんだとか。

あ、落下っていうのは文字通り落ちていかなきゃいけないって事。今でもよくわかっていないんだけど、あの森は世界の空に浮かぶ島

に存在していて、人間は誰も近寄ることが出来ないんだって。

16歳になった私は、おじさんにこの世界を旅してみたいってお願いした。だって、勿体無いと思わない？見たこともない感じたこともないものに出会うつて。最初の心構えさえあれば、来たときみたいに気絶しないしさ。

身を守る為の体術や魔術もおじさんに教えてもらったからある程度使えるようになったし、何より私に懐いたなっちゃん（ふわふわした精霊の一種で、狼と虎を足して割った感じの子。ちなみに名前はナシュー）もついてきてくれるって言うし。

これはもう旅するしかないでしょ！って事で、おじさんに一瞬で人間の住む大陸まで移動できる手段を教えてもらって、（だって落下するとか普通に無理だし）私の冒険は始まったのです。

時々里帰り（あ、森の方ね）するために大陸から空に浮かぶ島まで移動する手段もついでに教えてもらったんだけど。これに関しては、絶対に例え親しくなった人にも教えちゃだめだって言われた。何でかなって思ったんだけど…意外に自分は人見知りなんだって本人が言つてて、住处を他人には知られたくなかったらしい。

更に竜とか精霊は珍しくて捕らえようとする邪な人間もいるから、用心のためにも言つてた。うん、こんな理由なら納得できるよね。

+ + + + +

ここまでが今から4年前の出来事。

今現在の私はと言うと……てへ、子供が一人、ついでにお腹の中に二児目を妊娠してたりします。

すごく話が飛んじやって申し訳ないんだけど、旅先で出会ったあいつと何をとち狂ったのか結婚しちゃって今じゃ子持ちの母になっちゃったって訳。向こうの世界じゃ明らかに若い母親よね。

こっちの世界じゃ割かし普通っぽいけど…まあ、こんな事考えても仕方がないか。しかも初めての子を身籠ってから知ったことなんだ

けど やつ、こと私の旦那は本名はエルファード・ライッツ・イ
ーダ（以下略）っていう長ったらしい名前を持った大国の家出王子
だったらしい。

あの時は本当に切れたね。だって意味わかんなかったし、何よりず
っと黙ってたあいつがムカついてムカついて仕方がなかった。今じ
や立派に王太子妃を務めていますとも！！あ。今の訂正。昨日ま
で、立派に務めていましたとも！！

今現在はやつの態度にいい加減堪忍袋の緒が切れたので昔のあいつ
みたいに子供を連れて家出中です。普通だったら危ないからって子
供を置いていくかもしれないけど、私からしたらそんなこと有り得
ない！！こんな可愛くて天使みたいな子を置いていくなんて絶対に
無理。

妊娠中の身だから危険だって思われるかも知れないけど、家出先は
おじさんの所だし。危険度ゼロ、むしろ絶対安全ね。なんでそこま
で言いきれのかって言われたらそれまでなんだけど、何となく本
能で感じるの。あそこは、この世界で一番平和な場所だって。

おじさんに連絡を取ったら子供たちも連れてっていいって言うてく
れたし。あいつが反省して態度を変えるまで絶対に帰らない！精々
一人虚しく生活すればいいのよ。ああ、出て行く時のやつの態度！
今思い出してもムカつく！！

「あんた、いい加減にしなさいよ！何で私が謝らなきゃいけないの
よ！！」

「勝手に勘違いしたのはお前だからだろう」

「はあ~~~~っ！？何意味わかんないこと言ってるのよ！明らかに
悪いのは美女にデレデレしてたあんたでしょ！この浮気者！！」

「はあ。だから違うと言っているだろう」

「なんで溜息なんかついてるのよ！しかも違うって何？私はしかと
この目で見たんだからね、決定的瞬間を！！」

「……………もうこれ以上言い争っても堂々巡りだ。お前の愚痴はあと

で聞いてやるから、執務室から出てっくれ。政務に集中できない」
「…………… なっ なっ なっ 何ですって…………… つつっ！！！！！！」

とまあ、こんな感じだった訳ですよ。ほんとーに、ほんとーにムカつく奴よね。はらわたが煮えくり返りそう！！こっとなったら持久戦。これでもかって程、長い間帰ってやらないんだから。

+ + + + +

「なあ、トーカ。なんかその話を聞くと、お前の旦那が可哀相じゃないか？」

「はあ！？なに言ってるのよおじさん。可哀相なのは私のほうですよ！」

「しかしだなあ。これは明らかにトーカの勘違い…」

「ああああっそうだ。これを機にあつちの世界にも戻ろう。お父さんたちにも子供たちの事を教えてあげたいし。この可愛さを見ればイチコロ間違いなしよね！」

「おーい、聞いてるかー？」

「そうとなればいろいろと筋書きを用意しないと。引きこもりの娘に行き成り子供がいるのって分ったら説明を求めてくるだろうし」

「もしもーし」

「ちよつと、なっちゃん！こっち来て！！私と一緒に良い筋書きを考えよ」

「もしもーし…」

「ちよつとおじさん、さっきから何独り言言ってるの。そんな暇があるんだったら一諸に考えて。あ、その竜！あんたもこっちに来て」

+ + + + +

未だに気づかれていない、おじさんこと、この世界の神様は。どこまでも我が道を行く異世界の元養い子に半ば呆れつつ、苦笑いをした。

ああ、今日も賑やかだな、と。

1・異世界での体験記、あるいは…？（後書き）

この小説はイコという名前で運営している小説サイトに掲載している短編です。

MYパソコンが使えなくなっちゃったんで、現在別のパソコンを使って連載してます。

詳しくはまた書こうと思います。
では

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4426e/>

異世界での体験記、あるいは...？

2010年10月12日11時43分発行